

政務活動報告書

議員名 宮川 拓也

実施した政務活動の内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研修 <input type="checkbox"/> 視察・調査 <input type="checkbox"/> 陳情・要望	
実施日	令和 6年 3月 31日 (日)	
場所	動画セミナー	
主催区分	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 会派 <input type="checkbox"/> その他 ()	
同行者名	無し	
行程及び経費	行程 (交通機関、算定根拠、人数按分など)	経費 (単位:円)
	予算審議の前提としての財政基礎知識	10,000
	予算審議のアプローチ	10,000
	歳入の基礎編	10,000
	地方税の仕組みを解説	10,000
		経費合計 40,000
実施概要と所感	別紙のとおり	

※同じ項目がある場合は他の様式でも可とします。

※政党が主催する活動や研修セミナー、陳情は政務活動対象外となります。

※実施した内容がわかる資料、領収書、要望書等を添付してください。

※自家用車使用のガソリン換算方法を統一するため、同一箇所の往復の場合は、片道距離から換算した額×2 (往復) でご記入ください。 距離につきましては、実測いただくか距離検索サイトでお調べください

・ 予算審議の前提としての財政基礎知識

予算審議が市政の中でどのような位置付けにあり、なぜその理解が重要なのかを学ぶことができた。予算は市の方針や目標を具体化し、市民のニーズや期待に応えるための財政計画であることを再確認した。

予算審議に臨む際に必要な財政基礎知識の重要性について強調されていた。これは個人的な課題であると感じている。今後はさらに収入と支出のバランスや歳入の構成、支出の優先順位など、予算審議に必要な知識を身につけることで的確な意思決定を行うための土台作りが必要と感じた。

横手市としての財政の一番の課題は経常収支比率の高さだと認識している。いかに財政の弾力性を高められるかが今取り組むべき最大の課題だと考えている。

・ 予算審議のアプローチ

予算審議に取り組む際には多面的な視点を持つことの重要性が強調されていた。単なる数字だけでなく、その背後にある政策目標や市民のニーズ、地域社会の特性などを考慮することが必要であると学んだ。基本目標、主要政策、主要施策、事務事業という一連の流れを把握した上で、事業内容が目的を果たしているのか、目的を果たす成果になっているのか、成果を達成するのに適切な方法か、などを審議する必要がある。多面的な視点を持つことで、予算の優先順位付けや配分に関する意思決定がより適切になることを学んだ。

本セミナーでは実際の自治体の事業シートを見ながら、事例を紹介し、具体的な審議ポイントを指摘しており、横手市の予算審議にも応用できる有意義な学びが得られるものであった。

・ 歳入の基礎編

本セミナーでは、市の歳入がどのように構成されているかを家計に例えて説明されていた。自治体は息子夫婦世帯、国は両親世帯、地方税は給料、地方交付税は義務的な仕送り、地方債は住宅ローンなど、基礎編に相応しくシンプルで明確な説明がされていて分かりやすかった。

また、自治体規模別の歳入決算の状況を学び、それぞれの構成比を見ることもできた。地方税や地方交付税などの一般財源や、国庫支出金や地方債などの特定財源についても詳細に説明があり、自治体独自の施策を実行できる一般財源の重要性を改めて学ぶことができた。

市の財政を理解する上で、歳入の構成要素やそれぞれの役割を把握することが重要であると感じた。

・ 地方税の仕組みを解説

歳入の基礎編に引き続き、本セミナーでは自治体の歳入の一部である地方税にフォーカスして、地方税が市の財政を支える重要な役割を果たしていることを学んだ。

市町村の地方税は住民税と固定資産税が大部分であり、道府県の地方税は住民税と事業税に大きく依存しているということや、地方税の区分として、用途が特定されない普通税、用途が限定される目的税、地方税法に規定されている法定税、自治体が独自に課税する法定外税についてなど、地方税の基本と仕組みについて詳しく学ぶことができた。

このセミナーを通して、知っているようで意外と知らない地方税について改めて学ぶ機会となり、議員として知っておくべき自治体の税金の理解を深めることができた。